

# 城崎の活性化へつなぐ 多彩な取り組み

城崎では「ゆかたの似合うまち」を合言葉に、7月21日から8月30日までの40日間、「城崎温泉夏物語」と題して、夏を彩るさまざまなイベントが行われました。そこで、この夏、元気だった城崎を陰から支えてきた方を紹介します。

芹澤 <sup>まさし</sup>正志 さん(40歳)城崎町桃島在住

## 城崎を盛り上げた 夏の40日間

「私はイベントを考えたり、実行したりするのが肌に合っているんですよ」と話す芹澤さんは、現在、ケイズ連絡協議会の監事を務めています。この協議会は、城崎町商工会青年部と旅館の後継者ばかりが集う城崎温泉旅館経営研究会で組織されています。旅館経営のため、また、城崎温泉の活性化のため、仕事の合間を縫って定期的に会議を開催し、多彩な取り組みを続けています。7月21日から8月30日までの40日間にわたって行われた、



ケイズ連絡協議会の監事の芹澤さん。昨年は、城崎町商工会青年部長を務めた。「城崎温泉湯けむり太鼓」の座長でもあり、城崎温泉夏物語では、見事な太鼓さばきを披露した。

「城崎温泉夏物語」も同協議会が発案したものです。夏の城崎を盛り上げようと、平成6年に始まったもので、趣向を凝らした催しが期間中、毎晩日替りで開催されます。なかでも、「ゆかたのファッションショー」「ゆかたで撮りましょっト」「ゆかたでジャズ」など、「ゆかた」をキーワードにした催しが一際目を引きます。これらの催しは、「温泉」「カニ」に続き、「ゆかたの似合うまち 城崎」を売り出すと会員がアイデアを出し合って考えたものです。その結果、年を追うごとに祭りは賑やかになり、今では城崎温泉に欠かせない夏の風

物詩になっていきます。

## 町ぐるみで おもてなし

一方、同協議会の取り組みは、イベントの企画や実施にとどまらず、城崎温泉のさまざまなもてなし、サービスのあり方についても提案しています。

宿に泊まらなくても温泉情緒を満喫できる「ゆかたのレンタル」や、誰もが急な雨の日でも観光しやすいようにと外湯や駅などに設置されている「みんなの傘」、さらに、今や城崎温泉の必須アイテムとなっている「城崎うちわ」など、これらは全て同協議会が地域に提案し、導入されたものです。

芹澤さんは、「城崎温泉では、世代間の交流がうまくいっているお陰で、私たち若い世代の発想を、みんなが快く受け入れてくれます。地域一丸となつて、城崎温泉を良くしていくこうという雰囲気があるんですよ」と話します。

城崎温泉では、約100軒ある旅館や施設、住民が一体となつて、「まち」を一つのテーマパークとしてとらえ、

まちづくりが行われています。

## 経験・知識がないなら 汗をかけ

芹澤さんは、「これまでは私たちの世代が、イベントやまちづくりなど、好きなようにやらせてもらいました。これからは、若い世代が自由な発想で、私たちが愛する城崎の魅力さをさらに高めてほしいですね。経験・知識がない分は汗をかいて、もちろんわたしも応援します」と次世代に期待を寄せていました。



8月28日に行われた「ゆかたのファッションショー」。城崎温泉夏物語では、とことんゆかたにこだわって多彩なイベントが繰り広げられた

【関連記事12ページ掲載】